

授業科目 ボランティア論

【担当教員名】 山手 茂	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語・健康・社会
	開講時期	前期	必修・選択	選択・選択・選択・必修・選択
	単位数	1	時間数	15

<概要>
日本社会が市民社会として成熟するにもなって、保健・福祉・文化など公共の利益を自発的に追求し、よりよい社会を創造するボランティア活動が活発になり、参加者が増加している。その意義、歴史、実態などについて学習しながら、専門職とボランティアの関係を考える。

- <学習目標>
1. ボランティアの意義を理解する。
 2. 保健・医療・福祉専門職とボランティアの関係を理解する。
 3. 福祉コミュニティ形成のためのボランティア、ボランティア団体、NPOの役割を考える。
 4. 専門職になるための学習過程におけるボランティア活動の意義を理解する。
 5. 専門職になってからもボランティア活動を続ける意義を理解する。
 6. 専門職になってからボランティア・コーディネーターとして活動する意義を理解する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	国際ボランティア年・・・2001年国際ボランティア年の意義と学生のボランティア体験（時間内ミニ・レポート）		講義受講、 読書、ボランティア活動等自主学習
2	専門職とボランティア・・・担当教師（山手）のボランティア体験の発表と学生のボランティア観		
3	地域のボランティア活動・・・地域のボランティア・センターやボランティア団体の活動		
4	ボランティア団体・・・地域のボランティア団体の事例調査報告		
5	ボランティアの理論・・・ボランティア、ボランティア団体、NPOと福祉コミュニティの形成		
6	まとめ		
7	試験・・・学習成果を小論文にまとめる		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	使用しない。			
参考書	随時紹介する。			
その他の資料	毎時間印刷教材を配布する。			

【評価方法】 ①体験報告レポート、②出席、③期末試験を総合して評価する。	【履修上の留意点】 ボランティア活動は本来自発的な活動であるから、受講者は自発的・主体的に学習してほしい。「ボランティア実習」も受講し、実習・実践してほしい。
---	--